

# 田中節男教授の退職に寄せて

社会福祉学部長 小 泉 尚 樹

田中節男先生は平成6年4月、熊本学園大学社会福祉学部が設置されるのに伴い、前身である熊本商科大学教養部教授から配置換えにより本学部に着任されました。以来、先生は社会福祉学部で「政治学」の教鞭をとられ、本学部の教育・研究に多大の貢献をはたされました。とりわけ平成10年1月から二期4年間、故岡田武世教授のあとを受け、第二代社会福祉学部長となられ、平成18年からは附属敬愛幼稚園長、ならびに学内理事、評議員をつとめられ、大学の発展に寄与されました。また熊本市個人情報保護審議会会長を長くつとめられたほか、熊本県婦人問題懇話会、熊本県男女で築く地域社会推進懇話会、熊本市情報公開検討委員会等の委員を歴任し、地域社会においても重責を担ってこられました。先生の定年退職にあたり、これまでのご貢献にあらためて感謝申し上げる次第です。

さて田中節男先生のご経歴を紹介すれば、先生は昭和41年3月に九州大学法学部をご卒業になり同大学院法学研究科修士課程に進まれ、同大学院博士課程を単位取得満期退学し九州大学法学部助手をつとめられたのち、昭和49年に富山大学教養部（政治学）講師として大学教員の道を歩み始められました。初任地の北陸では富山大学で教鞭をとるかたわら、金沢大学、富山医科大学でも非常勤講師として授業を担当されました。昭和59年4月、本学前身の熊本商科大学に教養部（政治学担当）教授として赴任され、以来、定年をお迎えになる今日まで、上記のごとく教育・研究活動のほか、地域貢献ならびに大学の発展に尽力してこられました。

先生は修士論文を皮切りに、首尾一貫してルソーの政治思想を追究しておられます。ルソーの政治思想はルソーの人間論に基礎を置くこと、すなわち

それが「一方で国家秩序、社会正義を強調したものであるとともに、他方で人間の自由と人格の尊厳、理性と良心による自立を基本的価値としている」ことを主張されます。政治共同体は「市民のあり方、つまり文化や伝統および習俗によって支えられることが必要である」。このことを原理として含むのがルソーの政治思想と解釈されました。先生がご専門の日本政治学会や九州法学会の会員であることとならんで日本哲学会の会員であられたのも、なるほどと納得する次第です。平成6年秋から1年間はフランスのリヨン商科大学で熊本学園大学在外研究員として過ごされました。

本学を退職されるにあたりお名残はつきません。先生の温厚な人柄について、右にでるひとを探し出すのは困難です。親しくお付き合いいただいたのは何よりも幸いでした。これまでのご貢献に感謝申し上げるとともに、末永くご健康で過ごされることを祈念いたしまして退職記念号のご挨拶といたします。